

立教大学学術推進特別重点資金（立教SFR）
大学院生研究
2005年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院 異文化コミュニケーション研究科 異文化コミュニケーション専攻		
指導教員	所属・職名	氏名	
	社会学部	阿部 治 印	
自然・人文の別	自然 ・ 人文	個人・共同の別	個人 共同 名
研究課題名	エコツーリズム認証制度の導入に関する実証的研究		
研究代表者	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
	異文化コミュニケーション研究科・異文化コミュニケーション専攻・博士前期課程2年	松村 直子 印	
研究組織	在籍研究科・専攻・学年	氏名	
研究期間	2005 年度		
研究経費	200 千円		

研究の概要（200～300字で記入、図・グラフ等は使用しないこと。）

エコツーリズム推進に認証制度がどのような役割を果たし得るかを考察するために、スウェーデンの認証制度を事例に実証的考察を行った。その結果①認証基準が事業者エコツーリズムの理念を示し行動指針となる、②制度が観光者のニーズを反映し、持続可能性の視点から総合的なツアー体験の質に対するクオリティ・ラベルとなることで、制度に参入に対するインセンティブを創り出す、③各種教育・啓蒙活動、参入し易い配慮、現実社会との整合性を保つ努力により事業者のエコツーリズムへの理解と認証制度への参加を促進するしくみとなる点でエコツーリズム推進に貢献すると言える。以上をふまえ、日本での認証制度の今後に向けて七つの点を挙げる。

キーワード（研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。）

[エコツーリズム] [認証制度] [持続可能な開発]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

エコツーリズムとは「自然環境や歴史文化を体験しながら学ぶとともに、その保全にも責任を持つ観光のあり方(環境省・財団法人日本交通公社, 2004)」とされ、今日持続可能な開発の手段として期待されている観光のあり方についての考え方である。認証制度は、持続可能な開発の理念を反映した真のエコツーリズムに関する商品を保護、推進するための手段として注目されている(Honey & Rome, 2001; Geitz, 2001; Honey & Stewart, 2002; Toth, 2002; Font, 2003)。日本においても、2005年にNPO法人日本エコツーリズム協会が「エコツアー推奨制度」としてこのような制度の導入を発表した。今後も成長が見込まれる観光産業界の持続可能な開発を指向した先進的試みとしてその意義は大きく、今後の展開は注目に値する。

エコツーリズム認証制度の内容は適用対象地域の社会的状況に合わせて開発される必要があるが、制度としての基本的な枠組みには共通点が多く、先行事例から学ぶことは多い。そこで本研究の目的は、エコツーリズムの推進において認証制度がどのような役割を果たし得るかについて、先行事例の経験に基づき考察を行うことである。事例として、①持続可能な開発の視点を反映した国レベルのエコツーリズム推進の取り組みとしてその経験から学ぶ意義が大きいこと、②先進国におけるエコツーリズムという点で日本との共通点があること、の2つの理由からスウェーデンのエコツーリズム認証制度 *Naturens Bästa* を取り上げる。本研究は、持続可能な開発の手段としての視点から日本のエコツアー推奨制度の今後の拡充に向けて示唆を与える点で意義を持つ。

本研究では、第一段階として文献精査によりエコツーリズムの概念の包括性を概観した上でエコツーリズムが持続可能な開発の手段として期待される機能を発揮するための手段として認証制度に着目し、その基本的な枠組みについて整理した。

第二段階ではスウェーデンのエコツーリズム認証制度を事例とし、認証制度がエコツーリズム推進に果たす役割を考察した。まず、スウェーデンの認証制度に関する文献調査を行った。文献調査によってスウェーデンにおいて持続可能な開発を指向する国家の取り組みの中でエコツーリズムがどのように推進されてきたかを整理し、その上でスウェーデンのエコツーリズム認証制度について、第一段階の文献調査で示した認証制度の枠組みに基づいて整理した。

次に、*Naturens Bästa* 認証制度が持続可能な開発への貢献という視点からどのような意義を持つかについて、実際の認証取得ツアーへの参加体験および事業者から得た情報を基に考察を行った。同時にエコツーリズム推進のためには事業者によって正しくエコツーリズムが理解され、理解に基づいた質の高い商品が開発されることが重要との認識から、事業者の行動をどう形成するかという視点から認証制度の意義について、認証を取得している2事業者 *Bitterna Lamn*、*Vildmark i Värmland* を事例に考察を行った。

考察の結果、スウェーデンのエコツーリズム認証制度 *Naturens Bästa* は、①認証基準が事業者のエコツーリズムの理念を示し、その実現のための行動の指針を与える持つ点、②制度が利用者である観光者のニーズを反映し、3つの持続可能性の視点から総合的なツアー体験の質に対するクオリティ・ラベルとしての性格を持つことで、事業者の制度参入に対するインセンティブを創り出す点、さらに③各種教育・啓蒙活動、事業者が制度に参入しやすいような配慮、現実社会との整合性を保つための制度の定期的な見直しにより、事業者のエコツーリズムへの理解と認証制度への参加を促進するしくみとなる点でエコツーリズム推進に貢献すると言える。(つづく)

研究成果の概要 つづき

以上の考察をふまえ、日本のエコツーリズム認証制度の今後の拡充に向けて次の点を挙げる。①認証基準について、曖昧な概念とされているエコツーリズムについての共通理解を形成し、具体的な行動指針を示す点で大きな意義を持ち得ることを意識し、その効果を最大限活用すること、②事業者に対する広報活動の強化、③各ステークホルダーに対する広報戦略の明確化、④他観光セクターとの連携、また行政に対して⑤エコツーリズム認証制度を持続可能な開発の手段として明確に位置づけ、⑥省庁の壁を越えた取り組みを促進すること、さらに⑦認証制度への経済的支援を行うこと、の必要性である。

参考文献

- Font, X. (2003). Sustainable tourism and ecotourism certification: raising standards and benefits. *Journal of Ecotourism*, 2(3), 213-218.
- Geitz, M. (2001) *The tourism ecolabel market and its implications for a tour operator certification program in the arctic*. Hochschule Harz.. Retrieved April 5, 2005, from [http://domino2.hil.no/web/omhil.nsf/0/38600e16c62218e8c1256c38003ae022/\\$FILE/Diplomarbeit%20Miriam%20Geitz.pdf](http://domino2.hil.no/web/omhil.nsf/0/38600e16c62218e8c1256c38003ae022/$FILE/Diplomarbeit%20Miriam%20Geitz.pdf)
- 環境省・財団法人日本交通公社（編）（2004）. 『エコツーリズム：さあ、はじめよう！』財団法人日本交通公社.
- Honey, M. & Rome, A. (2001). *Protecting Paradise: certification program for sustainable tourism and ecotourism*. Washington: D.C.: Institute for Policy Studies.
- Honey, M., & Stewart, E.. (2002). Introduction. In M. Honey (Ed.), *Ecotourism & certification: Setting standards in practice* (pp. 1-29). Washington, D.C.: Island Press.
- Toth, R. (2002). Exploring the concepts underlying certification. In M. Honey (Ed.), *Ecotourism & certification: setting standards in practice*(pp. 73-102). Washington: Island Press.
- Font, X. (2003). Sustainable tourism and ecotourism certification: raising standards and benefits. *Journal of Ecotourism*, 2(3), 213-218.